

幼児の生活習慣の改善・定着に向けた 家庭との連携の在り方

葛城市立新庄北小学校附属幼稚園 教諭 小 走 尚 美
Kobashiri Naomi

要 旨

幼児の生活習慣の改善・定着を図ろうとするとき、幼稚園と家庭との連携・協力がまず求められる。保護者と共に子育てに取り組もうとする姿勢を幼稚園が常に堅持し、具体的な提案を行いながら、保護者の不安や悩みに寄り添うことが大切である。また、幼児に対して、生活習慣の改善・定着に向けての活動に対する興味付け、きっかけづくり、意欲付け、認めといった取組が不可欠である。

本報告は、幼児の生活習慣の改善・定着の方法を具体的実践を通して明らかにする。

キーワード： 幼児の生活習慣の改善・定着、家庭との連携、主体的な活動

1 はじめに

本園の幼児の家庭は核家族化傾向にあるが、母親が常に家にいて子育てができる家庭が多く、幼稚園にも協力的である。年度初めは親子ともども新しい生活や学年に対する意欲・期待感などがあり、生活習慣に対する関心も高い。しかし、その関心の高さがいつまでも続かないことが気になる。

両親の生活スタイルや家族構成などが幼児の生活に与える影響は大きい。各家庭の家族構成や幼児の降園後の活動状況の違いから、幼児にふさわしい生活リズムに整えようとしてもなかなか難しい家庭がある。また、幼児に規則正しい生活をさせようとしながらも保護者自身の根気が続かない家庭もある。

このような実態を踏まえ、幼児の生活習慣の改善・定着に向けた実践を行い、そこでの家庭との連携の在り方についてまとめた。

2 研究の目的

幼児の生活実態を把握する中で課題を明らかにし、生活習慣の改善・定着に向けて幼稚園が果たす役割及び家庭との連携の在り方について研究する。

3 研究の視点

- (1) 幼児の生活実態を把握し、幼児の生活習慣の改善・定着に向けた検討を行う。
- (2) 幼児自身がスムーズに生活習慣を身に付けていくための環境の構成について考察する。
- (3) 幼稚園と家庭との連携を密にするための取組を工夫する。

4 研究内容

(1) 生活実態の把握と生活習慣の改善・定着に向けた課題

全園児数が37名と少人数である本園は、教師が保護者と言葉を交わしやすく、各家庭の情報をつかみやすい。その中で、朝食をほんの少ししか口にしない幼児、家庭で「おはよう」のあいさつを時々しか言わない幼児、22時ごろまで起きている幼児がいることなどは把握できていた。いずれも、家庭の様々な環境が原因となっているようである。

平成21年度に県教育委員会により、親子のかかわり方を見直すことを通して家庭の教育力を向上させ、幼児期における子どもの基本的な生活習慣の向上や規範意識の芽生えを培うことを目的として、「おはよう・おやすみ・おてっだい」約束運動が行われた(県立教育研究所)。県教育委員会からの保護者対象アンケートは、県内の全幼稚園・保育所各10名に依頼され、6月と9月に実施された(6月3,153人、9月2,960人)。

ア アンケート調査

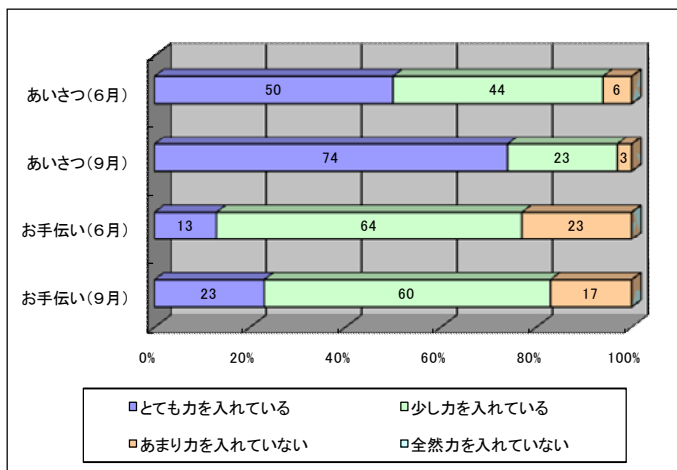
本園では、保護者全員に同じアンケート調査を実施した。以下に示すのは、本園保護者全員のアンケート結果である。

(7) 「あなたはどのようなことに力を入れて、お子さんを育てていますか。」

あいさつについては「とても力を入れている」保護者が6月に50%だったのが、取組後の9月は74%まで伸びた。後で述べる本園での「おはようこっこ隊」に至る活動の効果があつたと思われた。

(イ) 「お手伝いをする事」

お手伝いをする事に「とても力を入れている」保護者は、6月の13%から、9月23%へと一定の伸びは示すものの、依然として満足できる状況にはない。



グラフ1 保護者アンケート調査の結果より

イ 本園の幼児の実態についての考察

アンケートの他の調査項目(屋外で遊ぶこと、友達と一緒に遊ぶこと、親子でたくさんふれあうこと、体を丈夫にすること、基本的な生活習慣を身に付けること)についても、今後の定着に向けて、引き続き取組が必要と考えられた。

本園では、この結果を基に各家庭の実態に応じた方法や無理なく取り組める方法を提案し、生活習慣の改善・定着のきっかけづくりをすることで、より多くの家庭で幼児がお手伝いに取り組んでいけるようにしていきたいと考えた。

保護者に園からの要求ばかりを話すだけでは、改善にはつながらない。保護者にも“何とかしよう”という意欲を起こさせていくために、教師は保護者の「やっているけど、上手くないかな・・・」という悩みやいらだちに共感し、できそうなことから一緒に考えるという姿勢で臨んでいくことが大切だと考えた。また、幼児に対しても、教師が指示してできるようになるだけでなく、幼児自身が関心をもって主体的に取り組めるようにすることが必要だと考えた。

(2) 幼児が生活習慣を身に付けていくための環境の構成の在り方

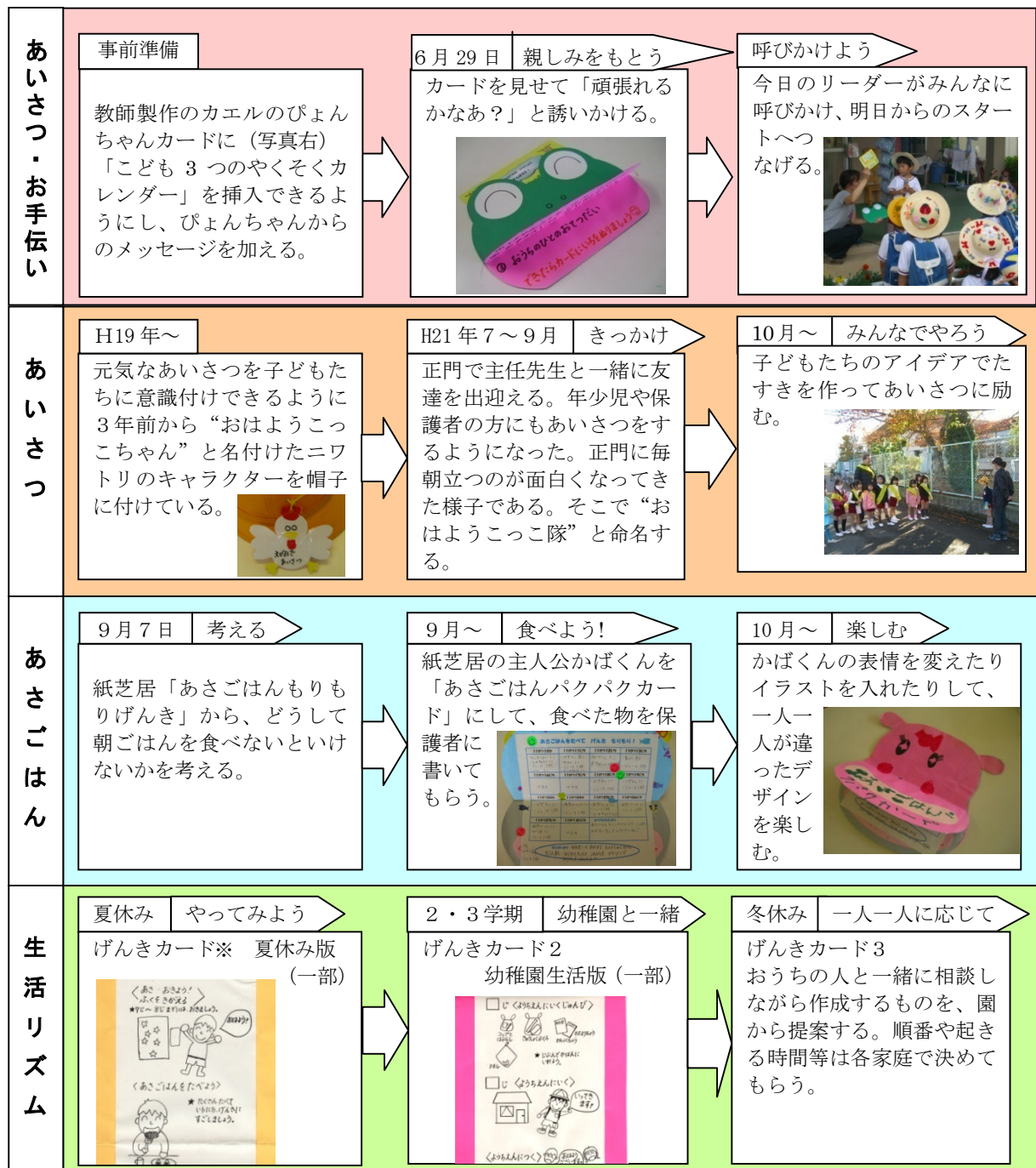
幼児の生活習慣に対する興味を高めていくためには、幼児にとって魅力的な物的環境を工夫することと、幼児が主体的な活動へ向かえる教師の援助が重要になる。

ア 生活習慣定着への物的な環境の構成の工夫

(7) げんきのおまじない “はやね・はやおき・あさごはん” “おはよう・おやすみ・おてつだい”

昨年度より、機会をとらえて“はやね・はやおき・あさごはん”（幼児は「げんきのおまじない」と呼んでいる。）を繰り返し指導してきた。今年度は県の約束運動「おはよう・おやすみ・おてつだい」にも取り組み、生活習慣の定着に向けた取組を進めていくことにした。

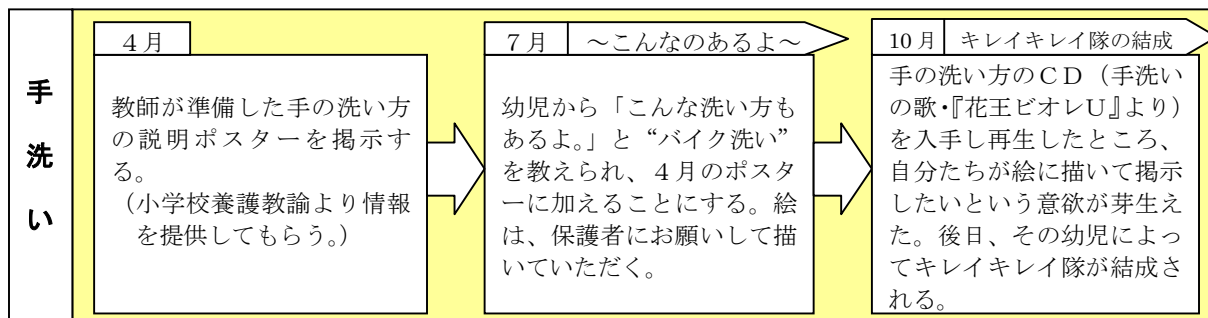
語呂のよい合い言葉が2つになり、幼児は生活の中でもこれらの合い言葉を口にするようになり、教師は合い言葉を意識し、進んで行動に移せるような物的な環境を工夫していった。



※げんきカード：一日の流れや生活習慣を表したもの

(イ) 幼児がつくった合い言葉“手洗い・うがい・ばいきんバイバイ”

2学期になり新型インフルエンザの予防をする中で、幼児から新たな合い言葉が生まれた。“手洗い・うがい・ばいきんバイバイ”である。これもまた語呂がよく、年長児から発信することですぐに幼稚園中に広まった。



幼児がその折々に興味や関心をもっている“旬の物”を取り入れることで、より効果的に興味付けができる。教師のきっかけづくりで興味をもった幼児は、どんどん自分たちでステップアップしようとする。もっともっとと意欲が出てくる。ほめてもらいたい、喜んでもらいたい、びっくりさせたい、もっとできるようになりたいなどの気持ちが芽生えてくる。このような意欲をもった幼児は、自分なりの方法を見つけていく。これこそが次へのステップではないかと考えた。これに反して保護者の関心を高めることの方が難しい。押し付けになってしまうのは定着しにくいだろうと考え、園での幼児の変化を毎日の送り迎えの時や連絡帳を通してじっくりと知らせていくことにした。

イ 幼児の主体的な活動への教師の援助の在り方

幼児が主体的に活動する機会を意図的につくっていくことで、幼児が自分で活動しようとする意欲を高めることを期待した。

(7) 柿取り隊長任命（9～10月）

今まで教師主導で行ってきた柿取りを、興味をもったU君を中心に幼児に任せた。幼児が「自分たちで柿をとりたい。」という意欲が高まることを期待したからである。

幼稚園の柿の実が色付き始めた頃、「いつになったら食べられるかなあ。」と、毎日気にしてくれるU君。T「先生も早く食べたいわあ。」 U「鳥が柿を食べに来ているで。」 T「えっ。ほんまや。」 T「U君、みんなでおいしい柿が食べられるように、柿のこと頼むわ。何とかしてよ。」 U「いいよ。」 T「じゃあ、今日からU君は柿取り隊長やな。みんなにも紹介しとこう。」

田んぼにある
案内山子かかしをヒントに“柿ざえもん”を作り、木にぶら下げて見張りを続けていた。



写真1 10月2日 柿取りの様子

柿取りの日取りや段取りは、隊長に従った。教師も、口を出さずに幼児に従うことにした。そうすることで隊長を中心にクラスがよくまとまり、自分たちで仕事を分担し、柿取りを見事にやり遂げた。散らばった葉や枝の掃除も最後までよくできた。

みんなで食べた柿はとてもおいしく、1個ずつ持ち帰った残りを11月1日のバザーで売ることが隊長が提案し、みんなが賛成して決定した。U君はもちろんクラスの幼児全員が、十分に達成感を味わった。

(イ) 「ぼくも“隊長”になりたい!!」

柿取り隊長のU君はクラスの幼児にも大きな影響を与えた。次はクラスの幼児にも自主性を育てるチャンスが来たと教師はとらえた。そこで、自分たちで問題解決していく姿を期待し、次のような取組を行った。その際に教師は、幼児の自主性を尊重しつつ、幼児の行動を見通して価値ある提案や揺さぶりを盛り込むことも必要であると考えた。その取組は以下の通りである。

ぼくも“隊長”になりたい!
「自分もU君みたいに隊長をやってみたい」という気持ちを持ち始める。

“おはようっこ隊”“水守り隊”“キレイキレイ隊”“スリッパスッキリ隊”などが結成された。それぞれの隊長となって友達に呼びかけたり、見回りに行ってきたり、水漏れがないか心配してくれたり、自主的に生活する姿が見られるようになってくる。

問題発生!! “隊長”って何だっけ?

R「トイレのスリッパがグチャグチャやで。スリッパスッキリ隊の人、やってくださいね。」
T「Rちゃんがそう言っているけど・・・。」スリッパスッキリ隊長「えっ、そう。ありがとう。」と、言いながら行こうとする。T「あれあれ、隊長さんが全部してあげるのですか。これからもずっとしてあげるのですか。」とつぶやく。近くにいたMは「違うよ。隊長さんは、『みんなにスリッパそろえましょう。』って言う人やで。」と、最初に確認し合っていたことを知らせてくれた。T「そうだっけ?」周りの子「そうやで。」R「そっかあ。Rが揃えてくるわ。」T「ありがとう。Rちゃん、一緒に手伝わなくても一人できますか。」R「大丈夫。」と言って、駆けていった。

問題発生II!! 「また、スリッパがグチャグチャや!」

いいこと考えた!
スリッパスッキリ隊がポスター作りをする。

K「スリッパがきちんと並んでいるのとグチャグチャになっている写真を2つはって、○と×書くねん。東部幼稚園で見たよ。」と、経験から思い付いたことを生き生きと伝える。教師が必要な写真を撮り、スリッパスッキリ隊の子どもたちが動き出した。ポスターをはった次の日・・・



写真2 スリッパの整頓呼びかけポスター

K「先生。写真をはったら、私たちが何にも言わなくてもきれいになっているねん。」
「さくら組さんも、きれいにしてくれてん。」

K「さくら組のみんなにもそのことを知らせに行きたい。」

自分たちが作成したポスターをトイレにはった効果が翌日に出たことで、幼児は、大きな満足感をもつことができた。また、幼児がその喜びをクラスのみならずとも共有するとともに年少組のみんなにもお礼の気持ちを伝えていきたいという思いをかなえるため、年少組と年長組両クラス合同でその時間を確保した。本園ではふだんから職員間で幼児の活動についての共通理解をしているが、このことが、機会を逃すことなくその場その場に応じて適時に活動の場を設定することを可能にしていると考えられる。

柿取りの時と同様に、教師はスリッパスッキリ隊の指示に従った。教師は、幼児のポスター作成に必要なものを用意して見守った。バラバラのスリッパの写真を斜めにはる発想はさすがである。目につきやすいと感心させられる。

(ウ) “〇〇隊長”の活動を通して

「隊長任命」はともすると押し付け合いになりかねないが、幼児がやりたいと言ったときに隊長の役割について話し合い、ルール作りができていたことで、幼児同士の混乱を招かずに済んだ。そして、幼児自身が生活に必要な役割を見つけ、生き生きと活動できるようにすることも教師の大切な役割である。

幼児に「もっとやりたい。」という意欲をどんどん膨らませるためには、教師が一人一人に「助かるわ。ありがとう。」の声を丁寧にかけていくことが大切である。この声かけは、幼児に蓄積され、満足感や次への意欲になっていく。

また、幼児の自己満足に終わらないよう、クラス全体、園全体へと広めていくことも大切である。そうすることで、一人一人が役割に対する自信をもてるようになっていく。自分が隊長になったり自主的に活動に参加したりすることで、教師が言わなくても活動できるようになる。幼児が主体的に活動するようになると、自然に幼児自身の中にその習慣が定着していくと考える。

(3) 幼稚園と家庭との連携を行うための取組

幼児の生活習慣の改善・定着のためには幼児自身だけでなく幼稚園と家庭の連携が必要である。「家庭での子育て」と「園生活」を密接につなぎ、保護者が保育に参加することができ『ほんわかデー』の取組の様子を次に述べる。

ア 『ほんわかデー』について

本園では、希望する保護者が保育に参加する場を定期的に設けており、その日のことを『ほんわかデー』と呼んでいる。事前にまとめ役の保護者と教師が打合せを行い、活動内容や配慮事項などを考えていく。年度当初に『ほんわかデー』を次のようなねらいで実施することを保護者に説明、啓発し、参加者を毎回募っている。

- ・保護者が保育者の立場で幼児と遊ぶことで、一人一人に応じた寄り添い方やかかわり方が必要なことに気付く。さらにこれまでの我が子へのかかわり方を見直すきっかけとする。
- ・他の保護者と話すことで自分の子育てを見直す。
- ・保護者同士の人間関係を築き、共に支え合えるようにする。
- ・遊びの環境準備を協力して行い、豊かな環境が幼児の遊びを豊かにし、心を育てることに気付く。

平成 21 年度の活動内容は、次の表の通りである。 ○ 4 歳児対象 □ 5 歳児対象

6月	○かけっこ、絵本 □ゲーム	10月	○□未就園児とミニミニ運動会
7月	○□ボディーペインティング	11月	○□いくぞ！おたすけ隊

イ 保護者が保育に参加できる場「ほんわかデー」における“いくぞ！おたすけ隊”の実践から

幼児がお手伝いに対する関心を持ち、家庭でのお手伝いを積極的に行うことができるように、幼稚園では保護者の協力を得て“いくぞ！おたすけ隊”の実践を行い、活動をより充実させようと考えた。(平成 21 年 11 月 16 日実施)

(7) “いくぞ！おたすけ隊”に向けた事前の準備

この活動では事前に『ほんわかデー』のリーダーである「ほんわか隊長さん」と教師の間で話し合いを行い進めていった。この活動の一番のねらいは、幼児の意欲を引き出し家庭でも

やってみようとするこゝとであるこゝとを考えた。そこで、7種類のお手伝いコーナー（表1）について相談、決定し、進め方の工夫、役割分担等を行つた。

- ・設定するコーナーは、夏休み後に本園で実施した「お手伝いに関する」記述式のアンケート調査（幼児が興味をもって取り組めたお手伝い、幼児が意欲をもって長く続けられたお手伝い、親子で楽しめたお手伝いの内容等に関する調査：記述式）の結果と年長児が幼稚園において“〇〇隊”として活躍しているものを参考に決定した。
- ・「ほんわか隊長さん」（保護者）が活動を進行し、各コーナーは、保護者に担当していただくことにした。また、活動後は参加した保護者が気付いたことを当日参加できなかった他の保護者にも広めていただくようお願いした。
- ・教師は幼児一人一人の状況を把握しながら、全体の進行を行つた。
- ・幼児はグループ（4歳児・5歳児混合）ごとにカードを持ってコーナーを回って行き、お手伝いができたら、各コーナーの担当保護者にカードにスタンプを押してもらつた。

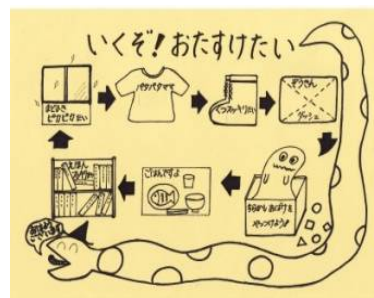


図1 「いくぞ！おたすけたい」カード

表1 各お手伝いコーナーの名前・内容



コーナーの名前	内 容
1 パタパタママ	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の洗濯物をきれいにたたむ。 ・種類にあったたたみ方があることを教えたり、教えられたりする。 ・たたんだ物をカゴに入れてきれいにしまう。 (体操服・体操ズボン・ハンカチ・タオル・靴下・パンツ・シャツ・タイツ)
2 くつスッキリ隊	<ul style="list-style-type: none"> ・靴をまっすぐにそろえて並べる。 ・靴の種類ごとに並べながら、形を合わせてパズルのような感覚を楽しむ。 ・次に履きやすいように並べる。 (運動靴・長靴・パンプス・大きい靴・ぞうり・ブーツ)
3 ぞうきんダッシュ	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきんを絞る。 ・ぞうきんを固く絞る方法を知る。 ・リズム室の床の木目に沿って、ふき掃除をする。 ・汚れたぞうきんをバケツにくんだ水で洗う。 ・バケツの水が汚れたのを見て、床がきれいになっていることを実感する。
4 ちらかしお化けをやっつけよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・お化けに興味をもち、このコーナーに来るのを楽しみにする。 ・目の前でブロックをグチャグチャにしまうお化けをやっつけようとする。 ・ブロックをケースにきちんと片づけることで、お化けがどんどん弱っていく姿を見ることを楽しむ。
5 ごはんですよ！	<ul style="list-style-type: none"> ・おぼんを使ってままごとのごはんを配膳する。 ・あいさつをして食事をいただく真似をする。 ・おぼんを使って元の場所へ食器を戻す。
6 絵本スッキリ隊	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を分類するための目印シールの色ごとに分ける。 ・絵本をまっすぐに並べる。 ・違う色の絵本が混じっていないかを確認する。
7 窓ふきピカピカ隊	<ul style="list-style-type: none"> ・乾いたぞうきんで空拭きをして、窓をきれいにしていく。 ・ぞうきんを扱いやすい大きさにたたむことを教えてもらう。

(イ) “いくぞ！おたすけ隊”の実施

幼児の発達の時期をとらえ、次のとおりねらいを位置付けた。

- 4歳児 “いくぞ！おたすけ隊”になって、お手伝いをする楽しさを感じる。
- 5歳児 “いくぞ！おたすけ隊”になって、進んでいろいろなお手伝いに挑戦しようとする。

表2 活動の様子

教師の援助・環境の構成	幼児の活動	考 察
パ タ パ タ マ マ		
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形のものをたたむ経験ができるよう、服、靴下、タオル、ズボンなどを準備する。 ・保護者に、「洗濯物がいっぱい困っているの。たすけてくれますか。」とうまく誘ってもらおうようお願いしておく。 ・「次は、これをやってみて。」「これは、何かな。」などの言葉かけにより、幼児がやる気をもてるようにしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たたんだ物をきれいにカゴに入れていく。 「きれいにそろえておいてね。」 「いつもしているからできるよ。」 「靴下はどうやるのかな。」 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>やっていることに自信がもてるように、ほめる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・K児が上手にたたむ。 T「Kちゃん、夏休みから洗濯物たたみをしているからすごく上手だね。」 ・K児は照れ笑いをして、次から次へと洗濯物をたたんでいった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方から「すごいね。お洋服屋さんみたいにたためるんだね。」とほめられた幼児は、日ごろの成果を認められ、とても誇らしげである。 ・たたみ方を教わった幼児は、2回目は「自分でやる」と言って挑戦した。 ・家庭で続けているお手伝いの成果を発揮し、認められたことで、さらに意欲的に活動できた。
ぞ う き ん ダ ッ シ ュ		
<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきんの絞り方のコツを必要に応じて教えてもらう。 ・すぐに手伝ってしまわないように保護者に予め声をかけ、幼児の様子を見守りながら幼児自身が考えながらお手伝いをやり遂げる姿を見てもらうようにする。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>保護者が幼児とのかかわり方に気付くような声をかける。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきん絞りに困っていた幼児に、 母「やってあげようか。」 K「いらん。自分でやる。」 母「頑固でしょう。」(苦笑) T「きっとKちゃんは自分でできるんですよ！園の掃除の時間でもいつもやれているからね。大丈夫ですよ。見守ってあげましょう！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には、「見守りながら待つ」ということを通して、自分でもとかぞうきんを絞ろうとする幼児の姿や、自分でできたという達成感からさらに次の活動への意欲へとつなげている幼児の姿を見てもらうことができた。 
ち ら か し お 化 け を や っ つ け ろ ！		
<ul style="list-style-type: none"> ・ちらかしお化けが散らかすのを見て、自分たちの行動を見直せるよう「あんなに散らかしちゃってどう思う？」と幼児に声をかけてもらう。 ・ちらかしお化けをやっつけられるように、元気よく励ます。グループの友達と力を合わせてできている場面をほめていく。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>幼児はちらかしお化けの姿を見て、自らの行動を振り返る。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前でブロックを散らかすお化けの姿を見る。 幼児「そんなんしたら、あかんやろ。」 幼児「何してんのよ。」と怒り出した。 母「ほんまやなあ。こまったねえ。グチャグチャにして・・・。どうしたらいいかなあ。」 幼児「片付けよう。」 ・自ら片付け始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前でちらかしお化けがブロックをひっくり返すのを見た幼児は、「何てことをするんだ。」という表情になった。幼児はちらかしお化けの姿と自分自身の姿を重ね合わせ、今、自分はどうするべきなのかを考え、行動に出たのではないかと考える。 
窓 ふ き ピ カ ピ カ 隊		
<ul style="list-style-type: none"> ・「からぶき」という言葉を幼児に教える。 ・どんなふうにして窓ふきを持ってやりやすいかを幼児に伝えてもらう。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>幼児にはよりよい方法を具体的に教える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきんをギュウツと握ってふく男児に、母「ぞうきんを小さく折ったら、力が入ってやりやすいで。」4つに折ってごらん！」(ふけた後) 母「きれいになったわ。」 母「向こうの人の顔がよく見えるようになったね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうきんの折り方のように具体的にわかる指示があれば、幼児はスムーズに仕事ができる。このことを、保護者の方にも感じてもらえた。

活動の最後には、参加の保護者から幼児に一言ずつ感想や思いを話していただいた。このことは、幼児のより一層の励みとなったようだ。

活動後の保護者の言葉

- ・みんなが頑張ってくれたので、リズム室の床がピカピカになりました。ありがとう。
- ・みんなのおかげで、いろんな所がピカピカです。すごいね。ありがとう。
- ・とっても頑張りましたね。ご苦労さま。今日からお家でも頑張りたいです。うちでもできるかな？できたら連絡帳に書いてもらって、先生にも知らせるといいですね。

(ウ) 事後の啓発と保護者の反応

“いくぞ！おたすけ隊”は今まで家庭や園で経験したお手伝いの内容であったので、幼児にとって抵抗なく取り組んでいた。また、できることを披露したり、ほめられたりすることで、自信へとつながったようにも思う。事前の打合せで、参加する保護者の方に、少し待つ、しっかりほめる、何度もほめる等をお願いした。そのことで、一生懸命幼児に声かけをしたり、少し考えさせてから声をかけたりしていただけた。今回の活動は、今後の家庭での子育てにも生かしていただけると考える。

その後、クラスだよりを通して『ほんわかデー』での“いくぞ！おたすけ隊”の活動を発信したが、このことは幼児だけでなく保護者への啓発にもつながった。

廊下の掲示板



クラス便り



写真2 ほんわかデー実施後の啓発

後日、保護者と連絡帳を通したやり取りを行った。このことを通して、保護者との連携がうまくいけば幼児はぐんぐん成長していくものであることも分かった。

『ほんわかデー』後の保護者からの連絡帳より

- ・11/17 帰宅中から、「家に帰ったら“おたすけ隊”になる。」と宣言。玄関の靴並べや洗濯物たたみと“おたすけ隊”を立派に遂行。母は、大層助かりました。
- ・11/17 幼稚園から帰って洗濯物をたたんでいると、早速おたすけ隊に变身。ほぼ全部たたんでくれました。次は、ご飯の準備。お鍋だったので白菜を洗い、ママが切ったのをボールに入れてくれました。ご飯のお手伝いは前から好きだったので、帰ってすぐに遊びに行ったりしていたので、ちょっとごぶさたでした。また、続くかな。
- ・11/23 この連休中、たくさんお手伝いをしてくれました。靴並べ・洗濯物たたみ・ご飯の準備をしてくれました。自分から進んで「何か手伝うわ。」と声をかけてくれて、とてもたすかりました。

・11/24 最近は、自分から「台をふく。」「洗濯物をたたむ。」と言うようになりました。前までは「手伝って。」と言っても「ああ、疲れた・・・。」と言ってなかなかしなかったのに、自らするようになり、うれしいです。(友達の影響かな。)
昨日も、砂を運ぶ手伝いをしてくれて助かりました。寒くて重たかったのに、「ママは、風邪だから休んでいてね。」と、優しい言葉までかけてくれました。

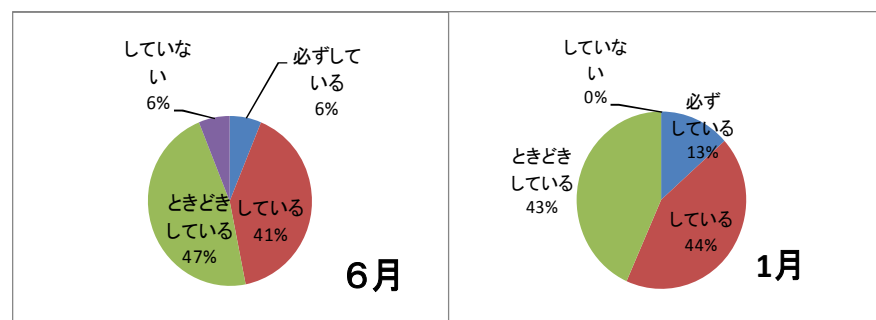
幼稚園では、連絡帳からうかがえる家庭での一人一人の頑張りを教師が大いに認めていくようにした。幼稚園として大切にしていきたいことが、少しずつではあるが家庭に浸透してきた。

また、家庭でも幼児に意欲をもたせようと、幼稚園での活動を参考に様々な工夫をする保護者も見られるようになってきた。各家庭が工夫するきっかけを提供できたと考える。

(4) 3学期に実施したアンケート調査等

ア アンケート調査結果から

冬休みを終えた1月、再び本園保護者にアンケートを行った。「あなたのお手先はお手伝いをしていますか。」の問いについて、6月に「必ずしている」「してい



グラフ2 保護者アンケート調査の結果より

る」が47%であったのに対して1月には「必ずしている」「している」が57%に増加した。この結果から、お手伝いをしようとする幼児の意欲が高まり、お手伝いをする頻度が少しずつ増えてきていると考えられる。

イ 連絡帳や記述式アンケートに見られる保護者の記述から

取組を通じて連絡帳にあいさつやお手伝いに関する保護者からの記述が増えた。

冬休み後に行った記述式のアンケートより

子どもたちのお手伝いが続けられるよう保護者が工夫していること

- ・「お母さん大変やわあ。」「たすけてほしいなあ。」とわざと言って、本人が「自分があげよう。」という気持ちになるようにする。親は手伝ってもらってどうだったか、感謝の気持ちを伝えるようにしている。
- ・日常の中で、ちょっとしたことを手伝ってもらうように心がけている。(自分の食器を運ぶ・机をふくなど)
- ・親がふだんしていることをあえて子どもに見せることも大事だと思う。「何をしているのかな。」→「ああやってするんだ。」→「大変そう・面白そう。」→「僕もしてみたい。」→「喜んでもらえた。」→「また、しよう。」とコントロールしつつ・・・。日常生活では、見て学ぶことも、教えて学ぶことと同じくらい効果があると思います。
- ・「お手伝いしてもらわないと。」というふうに気負わず、子ども自身が気付いてしてくれたことをお手伝いという感じにしていますので、冬休み後もお手伝いを続けてくれます。

このように、保護者が工夫しながら幼児にかかわるようになったことは、今回の取組が家庭との連携を密に取りながら行ったことの成果の一つであると考えられる。家庭でも、幼児が楽しく

お手伝いできるためには、保護者が幼児と一緒に考えていくことが大切である。また、園生活の中だけでなく家庭や地域の誰かに「ありがとう。」と感謝されることや頼りにされることで、「自分は誰かの役に立った。」と実感することができる。お手伝いをする大きな意味は、「自分は大切にしてもらっている。そして自分も誰かの役に立っている。」と感ずることにつながると考える。

5 考察

- 幼児の生活実態について把握していくためには、幼稚園での生活だけでなく、家庭での生活の様子を知ることが必要となる。日々の送迎時に保護者との会話から知ることでもできるが、まだまだ不十分であった。そこで、園全体でアンケート調査を行うことにより幼児の生活の様子が分かった。さらに取り組まなければならない課題も明らかになった。実態を明らかにすることで取り組む方向性を明確にすることができた。
- 幼児の生活習慣に対する興味付けには教師の意図的、計画的な環境の構成が必要である。また、幼児が主体的に活動していくためには、教師が幼児を頼りにする機会を意図的につくっていかねばならない。そのことで、幼児自身が「なんとかしなくてはいけない。」という意識をもち、「僕に任せて欲しい。」と、自分にできることを探すようになってくる。このように自主的に活動していく経験を重ねることで、幼児の意識が次第に変わっていく。教師は幼児が自分から興味をもって生活習慣を身に付けるようになった時のタイミングを見逃さず、称賛や励ましの声かけをしていくことにより、幼児は主体的に活動していけるようになる。教師の幼児に対するこの働きかけは、本人だけでなく周りの幼児にもよい影響を与え、学級の幼児全体が主体的に活動しようとする雰囲気もできあがった。
- 本園での『ほんわかデー』の取組は幼稚園と家庭との連携を密にただけでなく、幼児にとっては「誰かの役に立った。」という喜びや満足感を得て、生活習慣を楽しみながら身に付けていくことにつながっていった。また保護者は実際に『ほんわかデー』で保育に参加する中で、我が子へのかかわり方を見直したり、幼児が家庭での「お手伝い」を積極的に行うことができるようなかかわり方に気付いていったりした。幼稚園のこのような取組が家庭との連携の在り方として必要なことだと考える。さらに、家庭が連携を進めるうえで欠かせない点と考える。この取組は、その後も教師と保護者との連絡帳のやりとりを通して、継続していったことも大きな成果であった。教師が家庭での幼児の頑張りを知らせてもらったときには、幼稚園で幼児を十分にほめる。幼稚園から家庭に対しては、一日の活動の中での幼児の頑張りの様子を機を逃さずに知らせる。このように常に双方の連携を心がけることも家庭と連携を進めるうえで欠かせない点と考える。

6 おわりに

今回の研究を通して、幼児の生活において基本となる生活習慣をじっくりと見直すことができた。いうまでもなく、幼児期は生活習慣の土台を身に付ける大切な時期である。生活習慣を身に付けるためには、家庭との密接な連携が欠かせず、幼稚園が担う役割・影響力は、大きい。そのためにも、教師は保護者との信頼関係を築きつつ、共に考えていこうとする姿勢をもち、それを保護者に伝えることが大切である。今後、さらに、幼児期に身に付けた生活習慣を小学校生活へと円滑につなげていけるよう、幼稚園と家庭、幼稚園と小学校の連携の在り方を考えていきたい。